

# ROAD

発行 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学教育学事務室内

上智大学教育学科同窓会

TEL (03) 3238-3650 FAX (03) 3238-3980

編集責任者：教育学科同窓会会長 佐々木正文

## 上智大学教育学科同窓会会報

### 10月23日、2010年度総会開催

今年の講演会は、2人の卒業生によるトークショー  
1985年卒の岸本泰子さん、田口小枝子さんを迎えて

### 「仕事に、子育てに！ がんばってきた二人の素敵なお話」

同窓会では毎秋、様々な分野で活躍する卒業生の講演会を行なってきましたが、今年は一九八五年に上智大学文学部教育学科を卒業した二人の女性を迎えたトークショーを企画いたしました。十月二十三日(土)の開催です。

講師の一人は、入学当初から教職一直線、情熱をもって指導に当たってきた中学校教諭の岸本(旧姓佐藤)泰子さん。もう一人は、自宅の建築を機にインテリアコーディネーターとなり、お客様の住まいの相談に乗ってきた田口(旧姓山崎)小枝子さん。お二人に、仕事や子育ての経験を振り返ってお話いただきます。がんばる女性のお話を聴きに、世代、性別を超えてぜひご出席ください。

トークショーは午後一時半から、十一号館505教室で行ないます。総会も引き続きこの教室で開催し、午後三時半からの懇親会は、十一号館7階の第3会議室にて行ないます。終了時刻は午後五時半を予定しています。

#### 岸本 泰子さん

【略歴】

東京都出身。卒業後、東京都の中学校英語科教員となる。外国人指導員導入を検討する委員会に所属し、練馬区への最初の外国人指導員制を発足させる。



二〇〇四年から〇六年、米LAのAlexandria Academyの依頼で中・高校生を引率・指導。カナダではサマースクールを主催。〇五年、English Language Centre LONDONにてDIPLOMA IN TEACHING ENGLISH AS A FOREIGN / SECOND LANGUAGEを取得。

現在は板橋区立赤塚第三中学校主任教諭。一九九三年に結婚し、九五年に長男、九八年に長女・次女の双子を出産。〇六年、同じく教員のご主人が早期退職し家庭の仕事を担う。

#### 田口 小枝子さん

【略歴】

岩手県盛岡市出身。大学卒業後、(株)JTBに入社し、海外旅行カウンセラーに勤務。八七年に結婚して二人の娘を出産し、子育てに専念する。その後、自宅を建てるのが契機となりインテリアコーディネーターの資格を取得。一〇年ぶりに住宅メーカーで社会人として復帰する。



補佐業務からステップアップし、最終的には住宅リフォームの営業・提案・見積もり・手配から現場管理までを担当する。さらに経験を積み二級建築士の資格を取得する。

現在は専門性を活かし、内装メーカーのショールームでアドバイザーとして積極的な提案を行なう。来年の三月に長女が上智大学教育学科を卒業する予定。

# 新井茂光氏を偲んで

## 新井裕子さんによる二〇〇九年度講演会

昨年十月二十四日、二〇〇九年度の講演会・総会・懇親会が大学の十一号館で開催されました。講演会の講師には新井裕子さん（一九七七年卒）をお迎えして、二〇〇七年に亡くなられたパートナー、新井茂光さんを偲んでのお話を伺いました。

茂光さんの歩まれた道、突然のすい臓がんの発覚と闘病生活、そして自宅で最後を迎えるということ…。裕子さんと茂光さんは教育学科の同級生であり、当日はお二人につながる皆さんが駆けつけてくださいました。（以下、当日の講演要旨）



講師の新井さんと聞き入る同窓会員

今日は、もしかしたらこの機会に私をいろいろな人に会わせようとする夫が企んでいるのかなと思ひ、お話をさせていただくことにしました。昨夏に夫の三回忌を済ませ、現在私は三十年間の教員生活に別れを告げて、彼が開いた介護施設を引き継いで働いています。

茂光さんと私は教育学科の73クラスで出会い、卒業後に結婚し、栃木県の宇都宮市に住んできました。彼はとにかく神出鬼没で、成人式の壇上にポロポロのジーパンで上がったり、周りが就職活動をしている時に全く焦らなかつたり…：新鮮で面白い人でした。また、人への気遣いがあり、意外に勉強好きでした。上智や早稲田の大学院に通い、老年学に関心を深め、二〇〇〇年には自分の手で、認知症ケア専門の通所介護施設「デイセンターさくら」を設立。余所の施設の開設などにも関わり、大学で講義をするようになりました。

このさくらの介護の理念は、利用者さんを様々な経験を持つ人生の大先輩として尊敬し、家庭的な雰囲気の中で一人一人に寄り添ったケアをすることです。だから彼は職員が利用者さんに敬語を使うことを徹底しました。利用者さんたちの「いるがい」を創造するために、得意なことほとんどんやってみようように心がけました。

しかし二〇〇六年夏、夫に隣臓がんが見つかり、最初の手術の際に余命三ヶ月を宣告されてしまったのです。家族が動揺する中、彼は全く動揺を見せず、私に「看病のために仕事をやめるな」と言いました。家族だけで二十四時間介護すれば倒れてしまう危険もある…：介護に外部の手を借りる必要性は彼が日ごろから唱えていたことでした。するとありがたいことに、施設の職員が交代で看護に就いてくれたのです。人の手を遠慮なく借りられたのはまさに彼の人徳です。これが、夫が今までやってきたことの集大成なのだと感じました。

「でもいいか？」と訊きました。どんな形で本人が望む看取りをするのか、真剣に考えることが必要でした。主治医の先生は、在宅を選ぶということは最後の最後に救急車を呼ばない覚悟をすることだとおっしゃいました。私たちは点滴の仕方から何からを懸命に覚えて看護をしました。医師や看護師、ケアマネージャーと連携しながら、大切なのは、何より自分たちはたくさんの人に支えられていると思えることでした。

二〇〇九年三月、私は三年間担任だった生徒たちの卒業と共に就職を去り、夫の遺志を継いで介護施設を引き継ぐことになりました。教員生活ではやりたかったことをやりきったので何も思い残すことはありませんでした。今はこの新しい世界で、どこへ行ってもみんなが夫のことをよく知っていて、私に声をかけ、助けてくれることがとても幸せです。（了）

講演会後に二〇〇九年度の同窓会総会を開催し、活動報告、会計報告が承認されました。午後三時半からは懇親会に移り、会員の親睦を深めました。

# 香川弘同窓会初代会長

## 御逝去

教育学科同窓会の初代同窓会長を務められた香川弘さん（一九五六年卒）が七月二日にお亡くなりになりました。



在りし日の香川さん

香川さんは初代会長として長く同窓会の発展に貢献され、会長退任後も同窓会の活動を支援してくださっていました。

近年肺がんを患われましたが、とても前向きな姿勢で毎年の同窓会にご出席くださり、逆に周囲を気遣われるのが印象的でした。昨年度の新井裕子さんの講演会にも出席していただき、感想も述べていらつしやいました。葬儀は神奈川県の大船カトリック教会で行なわれ、大学より高祖先生もご臨席くださいました。同窓会からは御花を送らせていただきました。謹んで感謝と弔意を表させていただきます。

## あの頃の未来に乾杯!

高橋 喜代子(一九八五年卒)

今年も、「オールソフィアンの集い」(ASF)の当日に、一九八五年の春に卒業した私たちは、銀祝を迎えました。

さて、準備は一月からスタート。第一回のキックオフミーティングの後には、前年の準備委員の先輩方が、私達の銀祝の盛況を祈って、「引き継ぎ飲み会」を開催してくれました。これがソフィアンらしいところ。ヘルパー制度の伝統が卒業後も生きてると実感しました。その甲斐あってか準備委員会は四十名の大所帯に。そして、今年の銀祝のテーマは「あの頃の未来に乾杯!」と決定。ちよつとメランコリックな響きが、準備の一体感を一層盛り上げました。準備の五ヶ月はあつという間に過ぎ、迎えた当日。会場の都合で、準備委員の一番のりは六時三十分。学生時代さながらの、パーティー会場の手作り作業がスタートしました。会場の入口にはテーマに合わせて懐かしいグッズが並ぶ。「あの頃ミュージア

ム」が完成。受付準備も万端整い、いよいよ開場。式典出席者も戻って、お待ちかねのパーティーがスタート。僭越ながら、私が乾杯の発声をさせていただきました。

我が教育学科は十五名ほどのクラスメートが集いました。いつも思うことですが、みんな本当に変わらない。そのパワーにびっくり。歓談が進んでしばらくしたところで、高祖先生(現理事長)が石澤学長と会場入り。我らであつという間に先生を取り囲み、みんなに笑顔があふれました。盛り上がるパーティーの後半には、我々の入学直前に上智を離れられたピタウ先生のお話に聞き入り、ラストには新井満先輩が訳した直筆のサミュエル・マンの「青春とは」の詩の紹介があり、全員合唱の校歌斉唱で、お開きとなりました。

我らの二次会はしんみちで、せつかくだからと英語学科のみなさんと同席で、ここにも高祖

## 学位授与式の「報告

手島 美智子(一九七八年卒)

二〇一〇年三月二十六日、同窓会より佐々木会長他三名が、教育学科の学部卒業生六十三名、九月既卒者三名、大学院卒業生三名(うち一名は博士課程修了)の学位授与式に参列しました。前週にソメイヨシノの開花宣言が出されたものの、その後の冷たい雨で、咲き始めたつぼみが固く閉じたままでしたが、寒さの緩んだこの日は、卒業を祝うかのように土手の桜も薄ピンク

クの花びらを開いてくれました。袴姿の女子学生の姿は、いまや風物詩となりましたが、今年はそのに加え、色とりどりの袴に身を包んだ男子学生の姿もあり、より一層の華やかさを演出していました。

同窓で学んだ学友がそれぞれの場所で社会参加して行く区切りとなるこの日に当たり、卒業生の活躍に心よりエールを送りたいと思います。



華やかに、賑やかに記念写真

同窓会からは、佐々木会長より同窓会の活動内容紹介、会費の納入案内がなされました。卒業生の同窓会への活発な参加、会費の納入を期待したいものです。ヘルパー長であった奥山有理亜さんには、連絡係を快くお引き受けいただきました。



久し振りに集ったクラスメートたち

先生に参加いただきました。「あの頃の未来」をたつぷり堪能して、乾杯で再会を約束した一日でした。

### 2010年度同窓会のご案内

- 日時：2010年10月23日(土)  
講演会は午後1:30より  
総会は講演会終了後に開催  
懇親会は午後3:30より  
(終了予定は午後5:30)
- 会場：上智大学11号館  
講演会・総会は505教室  
懇親会は第3会議室(7階)
- 会費：懇親会費は3,000円です。  
当日受付でお支払いください。  
現役学生は参加費無料です。  
出席者は同封のFAX用紙をご利用いただくか、またはメールでご連絡ください。  
同窓生の皆さん、奮ってご参集を!

教育学科同窓会ホームページ

<http://www.sophia-education-alumni.jp>

# 武内清先生が御退任に

## 二月二十日に記念の教育社会学研究会を開催

武内清先生が今年の三月をもって御退任になりました。先生は一九八八年に故清水義弘先生の後任として、上智大学教育学科の教育社会学担当教授として赴任されました。以来二十二年にわたり、普段は穏やかで優しく、そして学問の場面では時として厳しく、多くの学生、院生を指導していただきました。同窓会といたしまして、厚く御礼申し上げます。



研究室での武内先生

武内先生はいわゆる「最終講義」を固辞され、その先生の意向を受け、教育学科と武内ゼミＯＢ会は共催して「第九十二回上智大学教育社会学研究会」をご退任記念として二月二十日に開催しました。

その研究会は十二号館一〇二教室で午後三時より行なわれ、まず第一部で武内先生ご自身が報告者として「自分の研究・教育をふりかえって」のお話をされました。続く第二部では「卒業生・学生からみた大学教育」のテーマのもと、教育社会学ゼ

ミの卒業生、学生が順に大学生活を振り返り、自分が得たこと、いま考えることを報告しました。司会は山形方人さん（二〇〇八年卒）、報告者は栗原峰夫さん（一九八二年卒）、宮永治郎さん（一九九三年卒）、中村康永さん（二〇〇七年卒）、学部生の猪鼻麻菜さんの四人が務めました。コメンテーターは小林雅之教授（東京大学）と河野銀子准教授（山形大学）でした。出席者は二百人近くに上りました。

武内先生は上智大学名誉教授になられ、今年度も非常勤の立場で大学院での指導のため四谷にいられています。そのほか、国際基督教大学や放送大学などでも研究と教育を継続されています。先生の益々の活躍をお祈りいたします。

### 上智大学教育学科同窓会 会計報告（案）

（2009年6月1日から2010年5月31日まで）

項目	収入	支出
1 前年度より繰越金	2,742,742	
2 終身会費	90,000	
3 同窓会参加費	72,000	
4 利息	791	
<b>収入合計（1）</b>	<b>2,905,533</b>	
1 郵送料		140,440
2 ROAD印刷代		88,725
3 会場使用料		26,940
4 同窓会飲食費		78,248
5 講師へのお礼		6,210
6 会場お花代		3,150
7 資料代		3,170
8 慶弔費（卒業祝）		26,634
9 文具代		3,670
10 振込手数料		840
11 会議費		1,400
12 ネット使用料		54,350
13 カード年会費		1,312
<b>支出合計（2）</b>		<b>435,089</b>

収入合計（1）－支出合計（2）＝残金 2,470,444 円

上記の通り、会計報告いたします。尚、残金 2,470,444 円は 2010 年 6 月以降の同窓会費に引き継ぎます。

2010年8月15日

上智大学教育学科同窓会

会計担当 伊藤 奈美予

監査の結果、上記の通り相違ないことを認めます。

2010年8月15日

上智大学教育学科同窓会

会計監査 神林 達郎

高橋 秀和

### 教育学科に新スタッフ

本年四月より、田中治彦（ハルヒコ）教授と北村友人（ユウト）准教授が着任されています。田中先生の専門分野は開発教育学（開発教育・持続可能な開発のための教育・環境教育）、生涯学習学（社会教育・青少年教育）、武内清先生の後任である北村先生の専門分野は教育社会学（国際教育開発論・カンボジア）、比較教育学（教育政策・ユネスコ）です。（大学HPより）

お二人をお迎えして教育学科の先生方は八名となりました。現在の学科のカリキュラム構成は「学問的基礎領域」と「国際的領域」の二本の柱で組み立てられています。今年度より学科長は湯川嘉津美教授が務められています。

なお、総合人間科学部課程センターの企画により、五月三十日の「オールソフィアンの集い」でソフィア会初の「教職に就いている卒業生と教職志望の在学生の集い」が開催されました。

### 同窓会事務局より

第十六号をお届けします。終身会費の納付率が年々低くなっており、会計状況は悪化しています。そのため会費未納の方には「終身会費納入のお願い」を同封しました。ご理解ください。

★ ★

看護学科の開設、福岡の泰屋中・高等学校が上智福岡中・高等学校に、と大学を巡るニュースが気になります。国際性を強めている教育学科では、学際的な「国際教育学」の可能性を追究しているそうです。（栗）